

平成28年10月19日

境港市民交流センター（仮称）新築工事基本設計業務プロポーザル審査経過及び結果

境港市民交流センター（仮称）新築工事基本設計業務プロポーザル審査委員会

委員長 丸 田 誠

境港市では、平成27年3月に策定した「美保飛行場周辺まちづくり構想」を基に、「災害に強いまちづくり」をコンセプトとして、防災施設の充実・強化と自衛隊のさらなる交流促進を目的に「市民会館周辺エリア」と「竜ヶ山公園周辺エリア」の2つのエリアについて、事業方針や施設の機能、規模等を示した「美保飛行場周辺まちづくり基本計画」を平成28年3月に策定し、整備推進方針を定めた。

2つのエリアのうち、市民会館周辺エリアについては、市の文化・芸術、交流の拠点であり、市内最大規模の避難施設でもある市民会館が平成25年12月以降、耐震強度不足からホール部分が使用停止となっており、新図書館を含めた文化・芸術と交流の拠点かつ防災拠点としての機能も備える「境港市民交流センター（仮称）」の整備が急務である。そこで基本設計を行う設計業者をプロポーザル方式で選定することとなった。地元設計業者を含む共同設計企業体を選定するため、建築関係学識経験者、文化関係有識者及び美保飛行場周辺まちづくり計画検討委員、合計7名で審査会を立ち上げ、今回の公開プレゼンテーションを含む第二次審査を行い、特定者、次点者を決定したので、その経緯と特定者、次点者の結果についてここに報告する。

公募に対して、審査書類の提出を8月31日で締め切ったところ、初期要件を満たした5者から提出があり、この5者で10月15日に公開プレゼンテーション及びヒアリングを行った。その後の審査委員会で5者に対する各委員の評価を基に合議の上で特定者及び次点者を決定した。

境港市民交流センター（仮称）の設計者については、通常の音楽、演劇ホール機能だけでなく災害時には、避難施設としての機能、市民の文化活動の拠点としての図書館機能、美術展示機能および自衛隊との交流機能等を併せ持つ、複合的な交流センターを設計できる具現性や市民協議への適性も鑑み選定した。

基本設計の特定者に選定された、石本建築・桑本総合設計共同企業体は、弓ヶ浜を連想させるアーチ状で「市民の山」の木材を底に取り入れたファサードを有するデザイン性に優れた建物で、その中にコンパクトにホールや図書館が配置されている。市庁舎からの動線も明瞭で市民に分かり易い配置となっている。ホールは災害時や展示会時には平土間となり、その椅子の収納等の考え方もシンプルで分かり易い点も評価が高かった。1階のキッズルームや子ども図書館、読書テラスなどは、子育てにやさしい境港市の理念を具現化してる。2階の一般図書館や学習室は利便性を明快にした点、免震構造で地震時の防災拠点としての成立性、ランニングコストを抑える工夫も明快で評価された。また、自衛隊との交流イベントの実現性や駐車場も現状より多く確保できる点も好印象となった。明るく開放的でシンプルなデザインの反面、昼光の書籍への影響やブ

ライバシーの点、エネルギー効率、腐食面からの木材使用の可否、楽屋を含めたホールの使い勝手などは、今後のワークショップ等による市民の意見を聞いた上で再考し、よりよく進化した交流センターの実現を期待する。

次点者は佐藤総合計画・平設計 設計共同企業体である。通常利用の多い図書館を設計コンセプトの中心とし、その点を押し出した設計提案であった。環境に配慮した大屋根で建物全体を包み込みコアのホールはコンパクトにかつ演目、観客数に対応できるよう設計されていた。図書館は1フロアにまとまっており大きな吹き抜け空間を提案しており評価も高かった。提案全体としては良く練れており、コストも含めた実現性は高いと考えられる。しかし平面的に大きく、駐車場も現状より増加しない点、アプローチ動線の不明確な点、自衛隊との交流のイメージが他のプレゼンテーションより分かりづらかった点等も指摘され、次点となった。

選定された案にも、未だ多くの改善すべき点が見られる。特定者には、市民や有識者、市の担当者等との対話やワークショップを通じて、境港市の実情を詳細に把握したうえで市民生活に有用な交流センターの設計をお願いすることとなる。より上質なデザインは勿論だが、音楽、演劇および展示機能を含めたホール、図書館、会議室、防災拠点などの多機能を有する建物として、市民の視点で使い勝手がよく、境港市のシンボルかつ市民から愛される建物となって欲しいと願う次第である。石本建築・桑本総合設計共同企業体は優れた実績、見識、意欲を有しており、上記願いを叶えてくれる設計者と言え、期待する次第である。